
グローバル知財戦略フォーラム2016

地方創生の可能性

～大学発ベンチャー支援、地域発・大学発ファンドの視点から～

2016年1月26日
QBキャピタル合同会社
代表パートナー 坂本 剛

自己紹介

坂本 剛 (さかもと つよし)

1966年11月生まれ(49歳)

1989年九州大学工学部生産機械工学科卒業。

大企業・中小企業・ベンチャー企業を経験し、2004年1月から九州大学知的財産本部において大学発ベンチャー支援、インキュベーション活動を行う(特任准教授)。

2010年4月から(株)産学連携機構九州代表取締役役に就任し、新たな産学連携ビジネスの開発を推進。

2014年6月に(株)産学連携機構九州代表取締役役を退任。

2015年4月にQBキャピタル合同会社代表パートナーに就任し、九州大学を中心とした九州の大学発ベンチャーを支援するファンド「QBファンド」の運営を開始。

約12年にわたり、福岡地域における大学発・地域発ベンチャー支援ネットワーク(SAM会(旧綾水会))を運営している。

2008年九州大学経済学府産業マネジメント専攻修了(経営修士(専門職))

九州大学産学連携センター 客員教授

福岡ベンチャークラブ 理事

<受賞歴等>

■日刊工業新聞主催 第2回モノづくり連携大賞 特別賞(産学連携コミュニティ「綾水会」における新事業創出)(2007年)

■第3回モノづくり連携大賞 大賞(九州大学のネットワークを活用した「置けば無線LANエリア!手乗りメッシュアクセスポイント」の事業化)(2008年)

<主な大学発ベンチャー支援先>

■(株)サイフューズ<細胞3Dプリンター開発・再生医療>(佐賀大学中山功一教授(元九大整形特任助手))

■PicoCELA(株)<超小型無線中継基地局開発>(九州大学システム情報科学研究院古川教授)

■(株)Lafra<データマイニング>(九州大学情報基盤研究開発センター廣川教授)



地域における大学発ベンチャー支援の取り組みについて
～草の根的な～

SAM会(旧綾水会)の概要

- 毎月基本的に第2火曜日開催。今月で丸12年欠かさず開催
- 場所:福岡の中心部のセミナールーム等(企業や行政機関から無償提供)
- メインプレゼン
 - 大学発ベンチャー、地域発ベンチャー企業のビジネスプラン
 - プレゼン時間20分、ディスカッション(30分)
 - ビジネスプランのブラッシュアップ
- ショートプレゼン
 - 事業化シーズや研究紹介、参加者の新たな取組みや企業紹介等
- ・ 約160名のML(セミクローズ)(基本的に坂本の承認が必要)
- ・ 毎回30~40名が参加
- ・ 参加メンバーの顔ぶれ
 - 大学発ベンチャー経営者、金融機関、ベンチャー支援機関、大学研究者、学生、地元ベンチャー・中小企業経営者、監査法人等

どういったことが生まれたのか？

■ 経営専門家ーベンチャーのマッチング

- ベンチャーの顧問就任、経営課題のサポート等(弁護士、会計士、弁理士等)

■ 異業種間の産学連携プロジェクトの創出

- JST地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」「バイオラピッドプロトタイピングシステムの開発」

(3000万円×3年)【九大病院整形外科中山特任助教(現:佐賀大学教授),メカトラックス他】
⇒サイフューズ

■ こくきん創業支援センター福岡との提携

- 平成22年4月14日に日本公庫と産学連携機構九州が業務提携を締結
- 平成18年4月～16社(のべ28件):214,900千円の融資実績

■ 大学発および地域発ベンチャー起業、新規事業創出

- (株)サイフューズ(再生医療ベンチャー)
- (株)リーボ(レンタカーのシェアリングサービス)

■ 在学中に参加していた九大の学生(学部・大学院)は、ほとんど起業

大学発・技術開発型ベンチャー創出に向けた福岡の課題(1)

強み

- 九州大学を中心に若くて優秀な理系学生・留学生を輩出
- 先端的な技術シーズが数多く存在
- スタートアップしやすいビジネス環境(特区)
- 街全体がコンパクトで住みやすい

現状

- 約6割の学生は九州外に就職(優秀な若手人材の流出)
- Uターン希望者の受け皿の不足
- 技術開発に関する補助金・助成金⇒多
- 起業家・ベンチャー支援人材巻き込む仕組み⇒少

大学発・技術開発型ベンチャー創出に向けた福岡の課題(1)

~~有望な技術シーズ×優秀な人材の供給~~

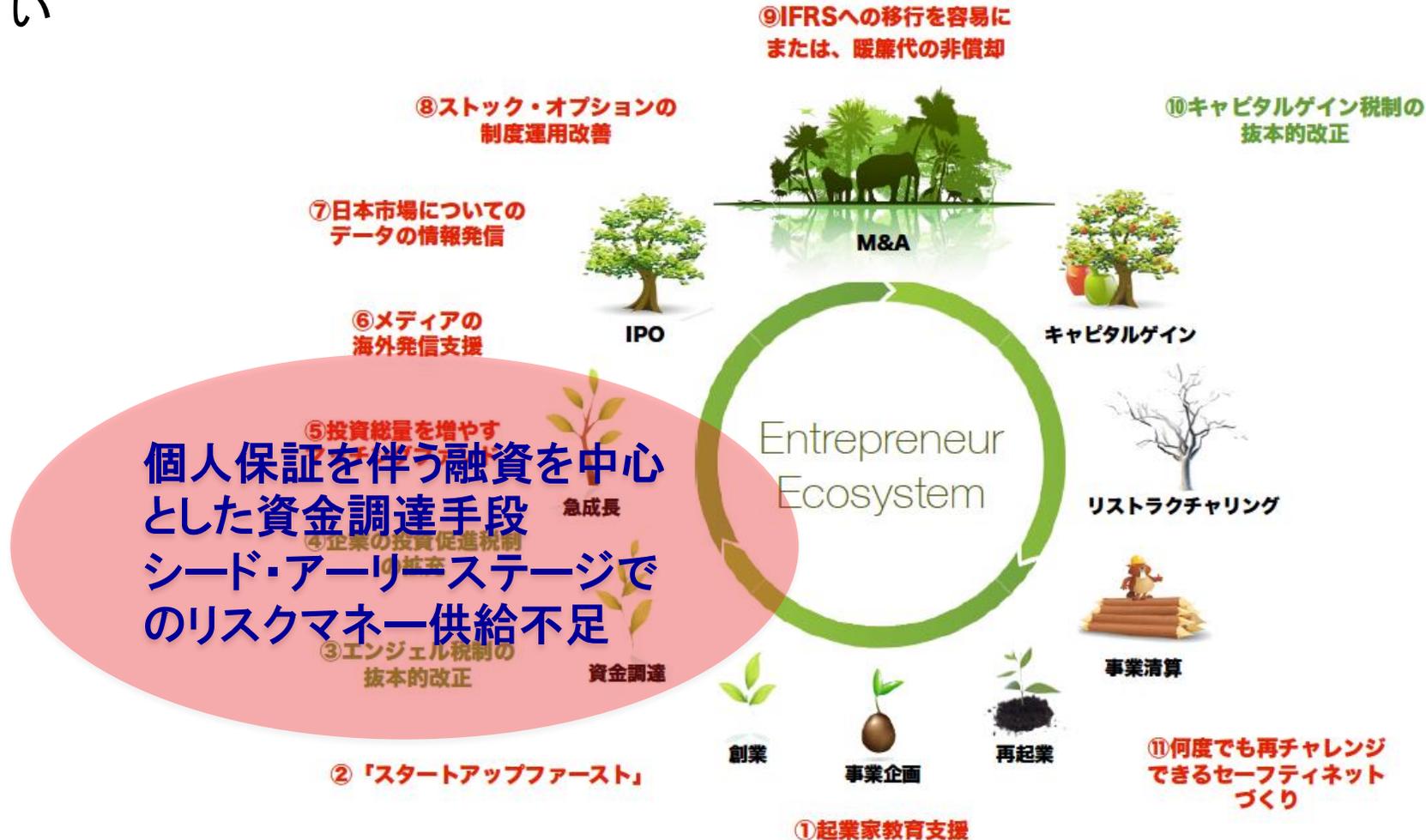


~~大学発・技術開発型ベンチャー創出~~

大学発・技術開発型ベンチャー創出に向けた福岡の課題(2)

- ベンチャーは多産多死、再チャレンジ⇒一度失敗すると再チャレンジが難しい
- リスクに見合うだけのリターンを得られる環境（急成長→EXIT）が整っていない

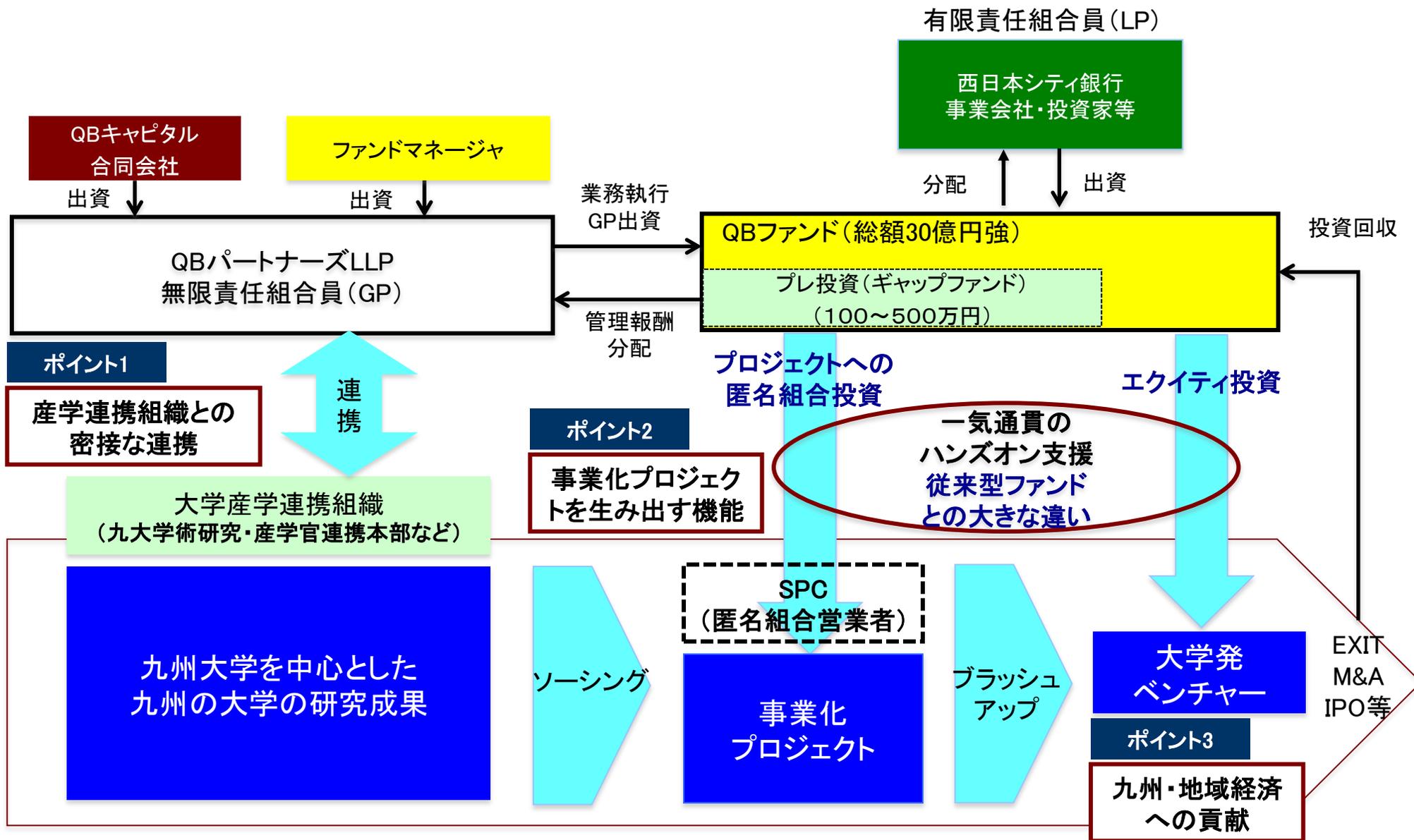
い



個人保証を伴う融資を中心とした資金調達手段
シード・アーリーステージでのリスクマネー供給不足

我々のネットワークで足りなかったもの？

QBファンドのフォーメーションと体制



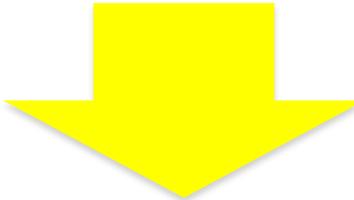
日本はお金が余っている
東京にVCがあるやろー！！！！

地域発ファンドの重要性

よく言われること

- 地域にファンドがなくても、中央（関東）の有望なファンドと連携すればいいのではないか？

ポンチ絵上では可能だけど、



- 技術シーズの発掘ができるのか？
- シード、アーリー段階でのハンズオン支援において、**起業家との密接なコミュニケーション**が必要・重要
- 地域での**エコシステム形成**が必要なのでは？
(連携・協調はするけど、すべて外注するのか？)

QBファンドが目指すもの

地域発・大学発ベンチャーの課題を解決し、
有望な技術シーズ×優秀な経営人材の供給＝多数の有望な九州大学を中心とした九州の大学発ベンチャーの創出を目指します！

- 九州大学を中心とした九州の大学の知の社会還元を目指した新たな産学連携モデル構築の実現
 - 金融的投資リターンのみならず、九州大学を中心とした大学との協業を通じた新たな産業・事業創造のプラットフォームを構築することにより、大学の研究成果の社会還元を促進させる
 - 九州大学を中心とした九州の大学における起業家精神の醸成
 - 大学発ベンチャーの成長を通じた九州大学を中心とした九州の大学の産学連携収入の増加(特許のライセンス料収入等)
- 九州・地域経済への貢献
 - 大学の知を活用した新産業を創出することにより、地域社会の活性化に貢献する
 - 地域における優秀な人材の起業意欲の喚起し、多くの地域発技術開発型ベンチャーを生み出す(特区による規制緩和の活用など)
 - 大学発ベンチャーを育成・支援することにより、地域に留学生を含む若くて優秀な理系学生の働く場を創造する